

## （「御食国」若狭 天皇の食を支える地）

### 若狭国：天皇への食糧供給

#### 概要

およそ 8 世紀から 10 世紀にかけて、若狭国は、皇族や宮廷の人々に提供される食糧の形で特定の税や貢納物を支払うよう指定された地域である御食国の役割を果たしました。若狭は塩や様々な海産物の産地として有名でした。木製の荷札と関連する歴史的な記録は、選ばれた沿岸地方が首都の貴族たちのニーズを満たすのにどのように役立ったか、そしてその当時に天皇や宮廷へどのような種類の食べ物が提供されたかを明らかにします。

#### もっと詳しく知る

##### 御食国：指定された食べ物の地

奈良時代（710 年～794 年）に、宮廷に提供された食糧は、御食国（食べ物の国）と呼ばれるいくつかの指定された国から集められました。それらは、海への交通の便や入手可能な食材の多様性、そして首都への近さに基づいて選ばれ、そのため食べ物が腐ることなく届けられました。8 世紀の歌集である万葉集には、淡路国（現在の兵庫県淡路島）、伊勢国、志摩国（いずれも現在の三重県）という 3 つの御食国が具体的に言及されています。

##### 宮廷への食糧供給地としての若狭

現存する文書で若狭国を御食国として明示したものはありませんが、いくつかの歴史的な調査の結果は、若狭国が御食国とみなされていたことを示唆しています。特に明白なのは、現在の奈良県にある藤原京（694 年～710 年の都）、平城京（694 年～710 年と 745 年～784 年の都）の発掘調査で、若狭から送られた品物の荷札として使われていた木簡と呼ばれる木の板が発見されたことです。この板には、出荷元や支払われる税、納税者、食品の種類などの情報が書かれていました。奈良の東大寺の古代の記録には、正式に指定された先ほどの 3 つの御食国とともに、若狭が「珍しい食べ物で毎月貢納する国」として言及されています。

##### 延喜式における食料による納税の記録

10 世紀初頭の風習や公務の手続きを編纂した延喜式には、塩や海産物で税や年貢を納めていたことについての詳細な情報があります。納税物として認められた特定の品物には、塩、タイ、イガイ、マイワシ、ウニ、アワビ、ホヤ、イカ、ナマコ、そして海藻が含まれていました。若狭が延喜式に税と貢納物の両方を納入したとして記載されたという事実は、御食国としての国の地位を示すさらなる証拠と見なされています。

## **展示品**

この展示は、8 世紀の皇居で見られたかもしれない典型的な食事の例を示しています。古代の文書には、天皇は朱塗りの食卓の前の低い長椅子に座り、箸と銀のスプーンを使用して、銀の椀に盛り付けられた料理を食べていたことが記述されています。4 つの小さな器は、ひしお（味噌や醤油の前身）や塩、酢、酒という調味料のために使用されました。これに基づき、研究者たちは、食べ物はあっさりとした味で食卓に出され、その後好みに応じて味付けされた可能性が高いと考えています。